

令和7年6月9日(月)

50th
ANNIVERSARY



学校では、毎年、新体力テストを行っています。新体力テストは、国民の体力に関するデータを集積し、体育行政の基礎資料としているものです。1964年から始まったスポーツテストが、1999年に測定種目を大改訂したため、新体力テストと呼んでいます。画像は、20m シャトルランの計測をしているところです。持久力を測定する種目です。20m 間隔で平行に引かれたライン間を「ドレミファソラシド」の合図音に合わせて、往復走します。合図音は1分ごとに速くなり、音についていけなくなり2回連続でラインに到達できなくなった時点で終了です。従前の持久走と比較した場合、徐々に走るペースを上げていくことから、より安全に計測することができます。



1年生が音楽の授業でアルトリコーダーの演奏に取り組んでいました。小学校で慣れ親しんだソプラノリコーダーと比べると、アルトリコーダーは本体も大きく、低い音階を奏できます。見た目や音の違いもさることながら、生徒がもっとも戸惑う違いは、運指です。ソプラノリコーダーは、ジャーマン式の運指で、ファの音が音階順になっているため、演奏しやすい特徴があります。一方、アルトリコーダーは、バロック式なので、シャープやフラットは吹きやすいのですが、ファが音階順ではないため、慣れるまではちょっと混乱します。ジャーマン式で覚えた運指をそのまま応用できないのです。しかし、ソプラノリコーダー以外のリコーダーは、すべてバロック式なので、ここでしっかり覚えておくと、将来様々なリコーダーを吹けるようになります。本時は、ベートーベンの第9「喜びの歌」を演奏しました。



2年生の美術は、人型フィギュアの作成です。針金の芯材に軽量粘土で肉付けし、水彩絵の具で彩色します。ここでは、一瞬の人の動きの躍動感や緊張感、美しさなどから感じ取ったイメージを基にテーマを生み出し、制作していきます。多くの生徒は、自分が経験しているスポーツでの動きを表現していました。関節や重心の位置、「のびる」「ためる」などの動きの感じなどについて考え、構想を練ることが大切です。

